

# 北海道江差町あすなろ福祉会がおこなった 障害を理由にした不妊手術強要に関する ピープルファースト北海道 声明

わたしたちは、しょうがいのある仲間たちが集まり、人として誰であっても、地域で自立した生活をする権利があると訴え、必要とする適切なサービスの充実を求め、ひとりの人間として地域で当たり前前に暮らせる社会「真のノーマライゼーション社会」の実現を目指して活動している当事者団体です。

新聞記事によると、北海道江差町にあるグループホームは、知的障害のあるカップルが結婚や同棲を希望する場合、男性はパイプカット手術、女性は避妊リングを装着する不妊処置を20年以上前から条件化していた。運営する「社会福祉法人あすなろ福祉会」の樋口英俊理事長は、「養育不全になった時に誰が責任を取るのか。生まれてくる命の保証はしかねる」と主張している。と書かれていました。

## あすなろ福祉会の記者会見は、自分たちの意見を正当化し聞き直っている。その姿に怒りがこみ上げます！！

あすなろ福祉会は、不妊手術を20年続けてきました。樋口理事長の発言は、手術は正しい。何が悪いという態度に見えます。当事者に手術を行う前に、ほかの地域での子育て活動の調査したり、行政など他の人への相談、実際に子どもができた時のことを検討し、研修など行った結果なのではないでしょうか！どうして、手術が正解だと言い切れるのでしょうか。手術を受けた当事者が途中で考え方を変える事だってあります。でも傷ついた体は取り戻せないのです。とても重たい決断である事に気づいていません！偏見・差別発言にしか聞こえません。

## 障害のある、なしに関係なく、子どもを育てる勇気が最初からある人 なんかいません。手術を強要しないで！

夫婦で暮らす当事者の人も取材を受け「子どもを育てる勇気がない。生活ができないから。」「ここでないと生活が無理」と発言されていました。手術を受け入れないと「生活できる場を失ってしまう。」「愛する人と一緒に居られなくなってしまう。」という不安から、しかたなく同意してしまったのではないですか。それは手術強要と何も変わりません。

わたしたちは、自分で選んで決めることができます。子育てだって選択肢の一つです！！

情報を自分のものにするための意志決定支援を受け、経験を重ねながら生活することは権利です。自己選択・自己決定の経験を奪われた結果だけを見て「何も出来ない」というのをやめてください。成功するまで人より時間がかかる事もあると思います。でも、一緒に考え、悩み、将来を決める経験がしたいのです。それを奪う権利は誰にもありません！！

あすなる福祉会だけの問題ではありません！！「障害者なんだから、手術はしかたない」「障害者は、子育てが出来ない」と決めつけてしまうのは、私たちの事を知らないからです。

子どもの頃から障害者は特別とされ、分けられた社会でくらしてきました。共に暮らせない社会は、偏見差別を創り上げ、制度にも影響しています。障害者が結婚し、子どもを持つ事に対して否定的な社会となっていますが、子育てをがんばっている障害者もいます。

いまこそ、障害者権利条約・障害者差別解消法を活用する必要があると思います。誰だって障害者になる可能性があります。そのとき、人生を諦めなくてはならない社会なんて、悲しすぎます。障がいがあっても幸せに暮らせる社会が必要です。関係ない人などいません。

だれもが幸せになりたいと思うことは当たり前な事に気づいてください。

あすなる福祉会は、私たちの声を無視しないでください！！

あすなる福祉会は、2020年9月に入所施設「あすなる学園」にて入居者をなぐる虐待事件がおきています。職員が3名も逮捕される傷害事件でした。私たちは、施設、法人(理事長宛)に抗議文を送りましたが、無視され、電話での問い合わせにも反応がありませんでした。あきらかに障害当事者のことを軽く見えています。当事者のことを無視しないで！障害のあるカップルの声を聞いてください！

わたしたちは、障害者である前に人間です！  
脱施設・施設解体！見逃すな虐待・人権侵害！

2023年1月6日  
ピープルファースト北海道